

プレスリリース (2013/4/16)

むかわ町立穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

Tel・Fax 0145-45-3141

<http://town.mukawa.jg.jp/1908.htm>

新種の白亜紀アンモナイト ゴードリセラス・ホベツエンゼ

(*Gaudryceras hobetsense*) を発表

北太平洋地域の白亜紀地層の時代決定に有用

4/27 (土) から むかわ町立穂別博物館で展示

[発表のポイント]

- 北海道中央南部のむかわ町穂別地域産の標本などを基に白亜紀マストリヒチアン期最前期(約7,200万年前)のゴードリセラス属アンモナイトを新種ゴードリセラス・ホベツエンゼ(*Gaudryceras hobetsense* Shigeta and Nishimura, sp. nov.)と命名し、論文発表した。
- ゴードリセラス・ホベツエンゼはマストリヒチアン期最前期という限られた時代に生息していたため、地層の時代決定に有用な示準化石となり、それらが産出した北海道むかわ町穂別、中頓別町、浜中町、北米アラスカ南部の地層がすべてマストリヒチアン期最前期のものであることを示す。
- むかわ町立穂別博物館で4/27(土)から展示する。

[研究成果の概要]

むかわ町立穂別博物館(旧・穂別町立博物館)と国立科学博物館の20年来の白亜系の野外地質調査と、国内外に収蔵されている標本調査の結果、北海道中央南部に位置するむかわ町穂別地域から産する白亜紀アンモナイトのゴードリセラス属が新種であることが明らかになりました。国立科学博物館の重田康成(研究主幹)とむかわ町立穂別博物館の西村智弘(普及員)の共同研究で、新種ゴードリセラス・ホベツエンゼ(*Gaudryceras hobetsense* Shigeta and

Nishimura sp. nov.)の記載と示準化石として国内外の地層の時代決定・対比についてまとめた論文を日本古生物学会欧文誌 Paleontological Research に投稿し、査読という専門家の審査を通して学会誌への掲載が採択され、4月1日に出版されました。

新種ゴードリセラス・ホベツエンゼは、ゴードリセラス属では大型（直径約20 cm）になる種類で、成長初期の肋（殻表面のおもに成長線に沿った凹凸）が細かいこと、成長後期の肋の断面形状が丸みを帯びていること、あるいは肋頂点の断面形状が平らであること、同時期に太い主肋が周期的に発達することが他種と異なり、これら特徴を基に新種を設立しました。学名は、この種の化石産地である むかわ町穂別（ほべつ） 地域にちなんでゴードリセラス・ホベツエンゼと命名しました（ホベツエンゼの～エンゼは学名の接尾語）。

この新種はマストリヒチアン期最前期（約 7,200 万年前）という限られた時代に生息していたため、地層の時代決定に有用な示準化石となります。新たに採集した標本と世界中の資料を基に判断した結果、既知の別種であると考えられていた北米アラスカ南部産標本、未定種として扱われていた浜中産標本、新たに採集した中頓別産の標本が、この新種であることが明らかになり、それぞれが産した地層の地質時代がマストリヒチアン期最前期であることが明らかになりました。

マストリヒチアン期最末期（中生代白亜紀最末期；約 6,600 万年前）は、アンモナイトをはじめ恐竜など多くの生物が絶滅したことが広く知られていますが、北太平洋地域のマストリヒチアン期の地層を対象とした詳細な化石層序と、時代対比、時代決定はこれまでほとんど行われてきませんでした。今回の発表論文を含めて、2010 年以降の重田を中心とする一連の研究で、マストリヒチアン期のゴードリセラス属を用いた化石層序（おもに種類ごとの産出順序）とこれらを用いた北太平洋地域の詳細な地質時代が明らかにされつつあります。こうした研究をさらに進めていくことで、アンモナイトを中心とした白亜紀末期における動物群変遷の解明が期待されます。

[備考]

ゴードリセラス・ホベツエンゼは、穂別地域から産するアンモナイトとしては24年ぶりに新種として記載された種類。

この種類は、穂別博物館収蔵資料としては、はじめての新種アンモナイト。
この種類は、ゴードリセラス属としては8年ぶりの新種。

[展示・普及講演]

むかわ町立穂別博物館では4/27(土)～6/30(日)までミニ展示として、新種ゴードリセラス・ホベツエンゼを展示します。その後、常設展示に移行します。常設展示に移した後は、調査・研究の為、標本を一時的に展示しない期間もありますので、ご了承ください。

普及講演会を6/2(日)に穂別町民センター(むかわ町役場穂別支所隣接)で行います(「新種の白亜紀アンモナイト;ゴードリセラス・ホベツエンゼの研究(15:30～16:00)」)。当日に同じ会場で「北海道のアンモナイトとその研究史(13:00～15:00)」についても講演を行います(先着50名)。

[論文名]

A new species of *Gaudryceras* (Ammonoidea, Gaudryceratidae) from the lowest Maastrichtian of Hokkaido, Japan and its biostratigraphic implications

北海道の白亜紀マストリヒチアン期最前期産 新種ゴードリセラス(アンモナイト亜綱, ゴードリセラス科)および, それらの化石層序(生層序)における意味

[論文著者]

Yasunari SHIGETA (重田康成) 国立科学博物館 地学研究部 研究主幹

Tomohiro NISHIMURA (西村智弘) むかわ町立穂別博物館 普及員

[掲載雑誌]

Paleontological Research (パレオントロジカル・リサーチ, 日本古生物学会欧文誌)



HMG-1573 完模式標本 (holotype)



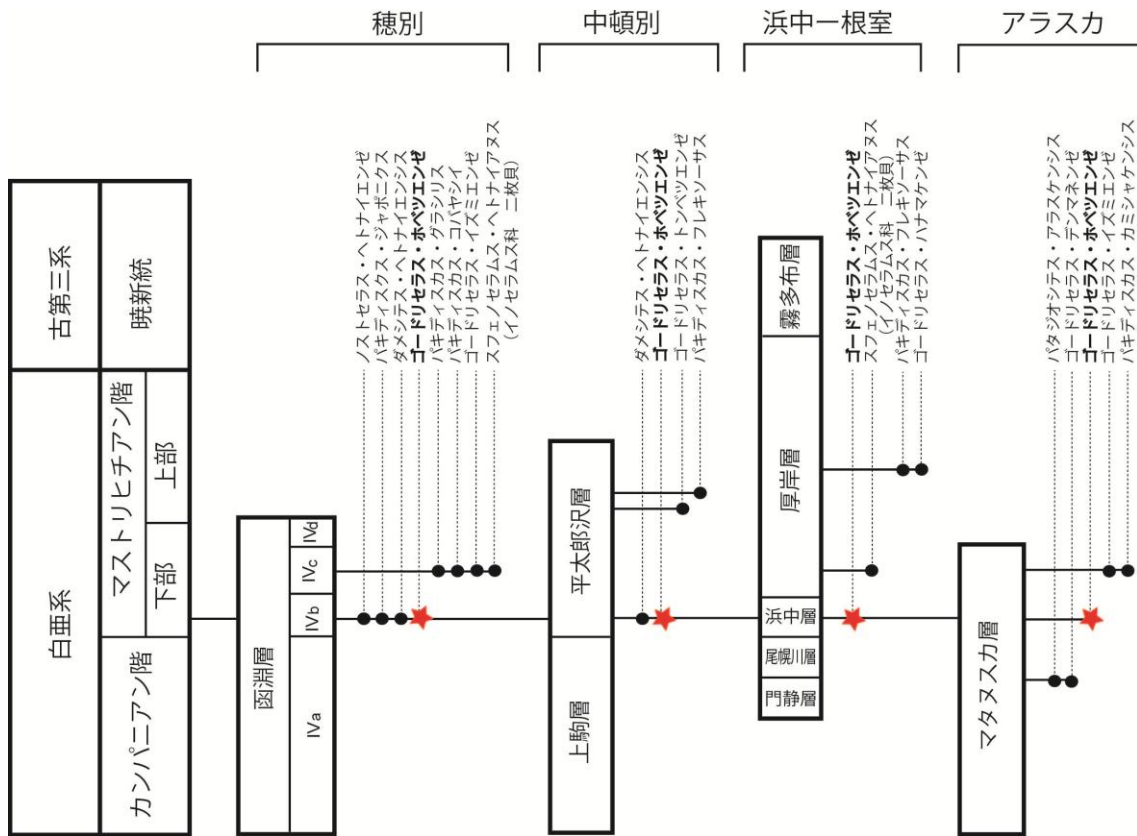
HMG-134 副模式標本 (paratype)

HMG-1592 副模式標本 (paratype)

新種ゴードリセラス・ホベツエンゼ (*Gaudryceras hobetsense* Shigeta and Nishimura, sp. nov.)



穂別および北海道内のその他の地域



北太平洋地域の白亜紀最後期の地層のアンモナイト・イノセララムス科二枚貝による時代対比.

[問い合わせ先]

むかわ町立穂別博物館 普及員 西村智弘

Tel・Fax 0145-45-3141 E-mail: tnishimura@town.mukawa.lg.jp

[その他]

写真・図を用いる場合は穂別博物館提供であることを明記してください.

報道された紙面などを穂別博物館まで郵送してください.